

千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

がんセンターニュース



第33号
平成28年7月7日発行
発行:千葉県がんセンター

理念

心と体にやさしく、希望の持てるがん医療

私たちは一人でも多くの患者さんに
質の高いがん治療を提供します。

新しい体制でのぞむ今年度

千葉県がんセンター病院長 永田 松夫



千葉県がんセンターは開所以来44年を迎え、今年度は診療科スタッフを大幅に入れ替え、新たな体制で診療が始まりました。

呼吸器外科には千葉大学から吉田成利部長が着任し、年間400例以上の肺・縦隔腫瘍について、縮小手術から拡大手術までの肺がん切除術、化学療法、化学放射線療法等に積極的に取り組んでいます。消化器外科は食道胃腸外科と肝胆膵外科に分け、肝胆膵外科では新任の高山亘診療部長のもとに計4名の一新したスタッフが、高難度な手術を積極的かつ高い安全性のもとに提供しています。

今年度私たちは、第一の目標を「医療安全」に置き、その体制を一新しました。副病院長が医療安全責任者となり、医療安全管理室に室長として専従の医師1名、専従薬剤師1名、専従看護師3名、臨床工学士1名、専従事務1名という特定機能病院に匹敵する人員を配置しました。きめ細かい医療安全活動を現場に浸透させ、誤認による重大な医療事故を二度と起こさない決意です。

そして私たちはもちろん、最先端の新しい治療技術を取り入れることががん専門病院としての責務であると考えています。臨床研究・治験をより一層導入し、積極的に患者さんに新たな治療選択肢を提示します。新しい技術の導入に当たっては、必ず外部委員を含む倫理審査委員会で厳格に審議します。そして、患者さんへの十分な説明のもと、患者さんの利益と安全を第

一に配慮いたします。万一治療中に問題が生じたときは直ちに医療安全管理室に報告され、早急に防止策が採られ、場合によっては病院長が治療の中止を勧告します。

私たちは患者さんやご家族に心から満足していただける医療の提供を目指します。がんの徹底的な治癒と同時に、体に負担が少なく、治療後の日常生活にできる限り悪影響を及ぼさないよう配慮した治療に努めます。がん医療は、いまや患者さんを中心として、多職種によるチームがカンファレンスで情報共有し、十分な検討のもとに進められます。治療の前には患者さんご家族に十分に説明し、幾つかの選択肢の中からできる限りご自身に治療法を決めていただくようにします。迷われたときには、患者相談支援センターに設置したセカンド・オピニオン・センターを遠慮なくご利用いただくことができます。患者さんと医療スタッフが自由にコミュニケーションをとり、患者さんが自分の意志を遠慮なく表すことができ、患者さんとチームが一致協力してがんに立ち向かっていく、これが理想です。

平成32年春には新病院がオープンします。病床数450、手術室13、放射線治療装置4台、PET/CT2台、CT5台、MRI4台と、現病院を大幅に上回る機能の充実した病院になります。ハード面、ソフト面ともに最高レベルの、真に患者さんに信頼される病院にいたします。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

臨床の現場から

患者さんが安心して家で過ごすための緩和ケアネットワーク

緩和医療科 坂下美彦

多

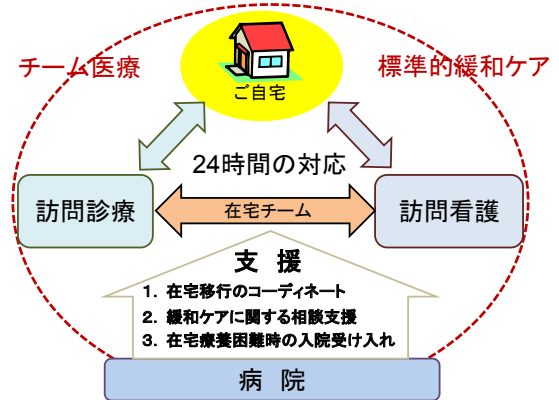
くのがん患者さんが希望することはがんを治すことあるいは少しでもその進行をくい止めることですが、もう一つはがんを患いながらも出来るだけ普通の生活、人として当然の生活ができることです。後者の希望をサポートする医療を緩和ケアと呼び、痛みなどの症状コントロールの技術が広がっています。近年、緩和ケアはがんと診断されたときから必要と認識されるようになり、全ての患者さんを対象に苦痛のスクリーニングなどが行われるようになりました。

その一方でがん治療が難しい患者さんの緩和ケアも相変わらず重要な課題です。患者さんやご家庭の事情によっても異なりますが、多くの方が出来るだけご自宅での生活を希望されます。そのため、我々は何処にお住まいの患者さんでもご自宅で安心して過ごせるように地域の医療施設と連携してサポートを行っています。具体的には病院と訪問診療施設、訪問看護ステーションが協働して患者さんを診ていくためのルール（地域連携パス）を定めています。地域連携パスでは、どの施設でも医療

用麻薬の使用などを含めた標準的な緩和ケアを提供すること、在宅の施設が24時間の対応を行う一方で病院は在宅療養が困難となった場合に必ず入院を受け入れることなどを定めています。

現在、この地域連携パスに協力可能な施設は病院が5施設、訪問診療が78施設、訪問看護ステーションが81施設になり、複数の医療圏に広がる地域緩和ケアネットワークになっています。過去6年間にこの地域連携パスを適用してご自宅で過ごした患者さんは約800人に及び、そのうち約6割の患者さんが最期までご自宅で過ごしました。

当院の緩和医療科では、何処にお住まいの患者さんでも安心してご自宅で過ごせるように、地域の医療施設と連携をとりながらサポートしています。



第24回 ふれあい広場紙ヒコーキ大会

平成28年6月3日金曜日午後1時より、第24回ふれあい広場紙ヒコーキ大会が開催され、東病棟中庭で多くの職員が見守る中、患者さんが東病棟バルコニーから紙ヒコーキを一斉に飛ばしました。当初は5月27日に開催を予定していましたが、あいにくの雨により延期。不安定な天気が続くこの時季だけに次回開催も心配されましたが、最後まで予定通り開催することができました。

副院長のあいさつの後、ホイッスルが鳴る前にすでに紙ヒコーキを飛ばしている患者さんも。時折吹く風が紙ヒコーキを空高く舞い上がらせ、もしや屋上に行くのではとひやひやする場面もありました。

今回、約600枚の紙ヒコーキが飛ばされましたが、その中から飛行距離、デザイン性等を基準として選ばせていただいた24名の患者さんに、午後4時からの表彰式にて副院長、副看護局長より賞状と景品をお渡ししました。

1階のふれあい広場に紙ヒコーキを飾らせていただく際、折り方に工夫が凝らされたものや、絵が描かれているもの、「弱気を吹っ飛ばせ!」「早く家に帰れますように」「ごはんが美味しく食べられますように」という願いが書かれたもの散見されました。

最後になりましたが、ご協力いただいた仁戸名特別支援学校の先生方、職員の皆様、本当にありがとうございました。



地域医療連携室だより

医療安全向上の取り組み

千 葉県がんセンターは、患者さんの安全と安心を最優先にし、診療にあたっています。新年度4月、医療安全の向上を目的に、新たな取り組みを始めましたので、紹介します。

1) 医療安全管理体制の強化

大学病院等の特定機能病院と同等の医療安全対策を行うため、管理体制を強化しました。医療安全担当副院長を新たに配置し、医療安全管理の責任者としました。

また、医療安全管理室の職員を大幅に増強し、日々の安全管理業務を強化しました。医療安全管理に専従する職員は従来、看護師2名のみでしたが、新たに医師と薬剤師を配置し、医療専門職5名体制としました。これにより、それぞれの専門性を生かしながら、よりきめ細かい安全管理業務を行っています。

2) 病院全体で行う医療安全

院内各部門に医療安全の担当者「リスクマネジャー」48人を配置し、それぞれが部門内の業務手順の整備、環

境整備、職員の安全意識の向上を行っています。特に医療安全に係るリスクについて、部門内で気がかりなことがあった時には医療安全管理室に連絡し、協力して解決を図っています。

また、部門を越えた病院横断的な安全向上活動においても、関係するリスクマネジャーが協働し、共通の業務手順等を作成しています。

3) 医療事故の発生予防

医療事故の防止には、確認漏れなどの人的ミス、いわゆる「ヒューマンエラー」の発生を少なくし、もしエラーが起こってもそれを早期に発見・対処し、大事に至らないようにすることが重要です。当センターでは、事故が起こらないよう、予防する取り組みを強化しています。

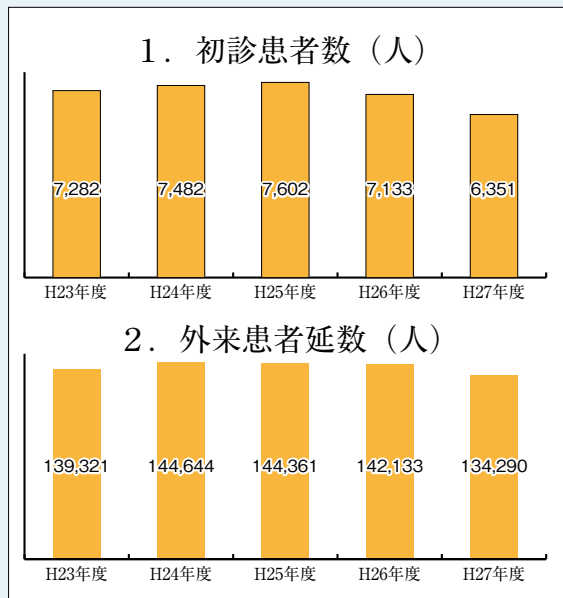
医療安全管理室では、医療安全に係るリスクについて日々、情報を収集し、モニタリングをしています。職員からの事例報告、リスクマネジャーからの連絡、院内巡回、各部門でのヒアリング等により、事故発生の可能性を予測し、事前に対処できるよう活動しています。

これらの活動を通じて、職場内での円滑なコミュニケーションを図るとともに、職員一人一人の安全意識の向上を進め、より一層、安全ながん医療に取り組んで参ります。

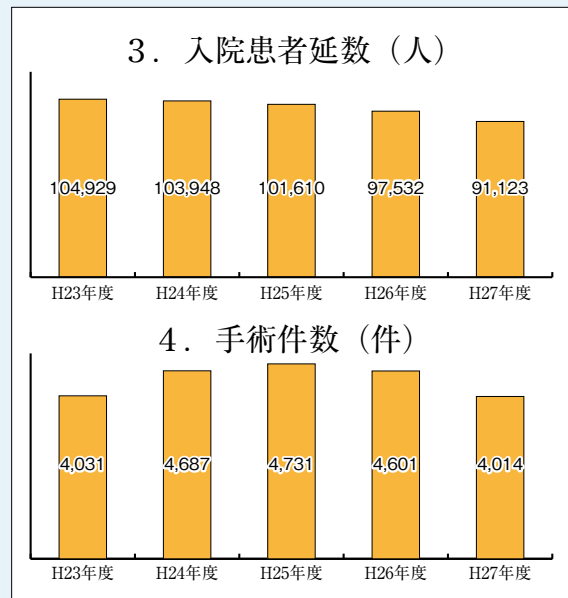
診療実績

患者数の動向

診療情報管理室



平 成27年度の初診患者数は前年に比べて782人減っています。それに伴い、外来患者延数、入院患者延数、手術件数もそれぞれ減少しています。



初診担当医表

2016年7月1日現在

【予約受付時間】

月曜日～金曜日(祝祭日、年末年始を除く)
9時～17時

診療科	月	火	水	木	金
(消化器外科) 食道・胃腸外科 肝胆膵外科	池田 篤 外岡 亨 有光 秀仁	高山 亘 鍋谷 圭宏 早田 浩明 外岡 亨	滝口 伸浩 高山 亘 池田 篤 知花 朝史	鍋谷 圭宏 滝口 伸浩 永田 松夫 柳橋 浩男	早田 浩明 有光 秀仁 千葉 聡 星野 敢
消化器内科	傳田 忠道 廣中 秀一 鈴木 拓人 喜多絵美里	傳田 忠道 須藤研太郎 三梨 桂子	山口 武人 傳田 忠道 廣中 秀一 中村 和貴	傳田 忠道 廣中 秀一 鈴木 拓人	中村 和貴 須藤研太郎 三梨 桂子 北川 善康
呼吸器外科	飯笹 俊彦		飯笹 俊彦 吉田 成利		飯笹 俊彦 吉田 成利
呼吸器内科	芦沼 宏典	板倉 明司 新行内雅斗 芦沼 宏典	吉田 泰司	板倉 明司 新行内雅斗 吉田 泰司	芦沼 宏典
乳腺外科	山本 尚人 寺中亮太郎	藤咲 薫 (担当医)	中村 力也 寺中亮太郎	藤咲 薫 (担当医)	中村 力也 寺中亮太郎
形成外科				徳元 秀樹	徳元 秀樹
婦人科	大崎 達也	田中 尚武 鈴鹿 清美 (腹腔鏡手術) 井尻 美輪	大崎 達也	田中 尚武 鈴鹿 清美	大崎 達也
泌尿器科	小丸 淳 大塚 真史	植田 健 篠崎 哲男	梨井 隼菱 鎌迫 智彦	小林 将行 竹下 暢重	深沢 賢 篠崎 哲男
腫瘍血液内科	熊谷 匡也 伊勢美樹子	辻村 秀樹 菅原 武明	熊谷 匡也 菅原 武明	熊谷 匡也 伊勢美樹子	熊谷 匡也 辻村 秀樹
脳神経外科	井内 俊彦		井内 俊彦		井内 俊彦
頭頸科	佐々木慶太 佐々原 剛	佐々木慶太 佐々原 剛 堀中 敦史		佐々木慶太 佐々原 剛 大熊 雄介	
整形外科	石井 猛 米本 司	石井 猛 岩田慎太郎		石井 猛	米本 司 岩田慎太郎 鴨田 博人
緩和医療科	秋月 晶子	秋月 晶子		秋月 晶子	秋月 晶子
精神腫瘍科	秋月 伸哉	秋月 伸哉		秋月 伸哉	秋月 伸哉
核医学診療部		戸川 貴史	久山 順平	久山 順平	戸川 貴史

【診療予約のご案内】

予約電話 043-264-5431 (代表番号) 地域医療連携室 予約担当

- *当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。
- *初めて受診なさる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。

研究の現場から

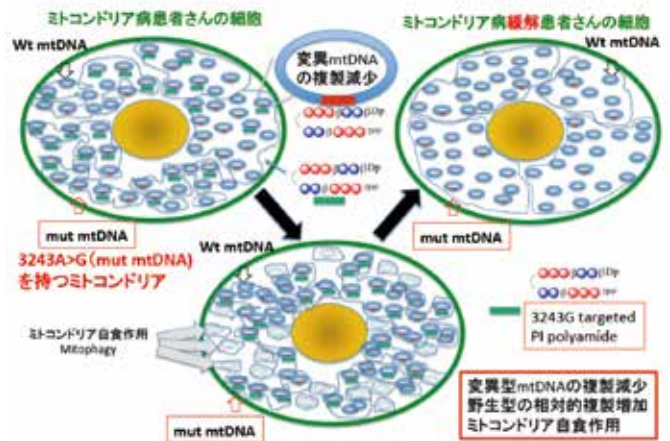
ミトコンドリア異常による難治性疾患の克服を目指して

がん遺伝創薬研究室 越川信子

ミトコンドリアは生命活動の基本となるエネルギーを大量に効率よく合成する細胞のエネルギー工場です。この工場の様々な因子を構築するDNAは核内とミトコンドリアに別れて存在します。これらのDNAに異常をきたすことにより発症する代表的な疾病がミトコンドリア病です。ミトコンドリア病は遺伝性で小児期に発症することが多く、家族における遺伝子の変異を調べるのが重要です。がん遺伝創薬研究室では、千葉県こども病院 代謝科の村山 圭先生との共同研究により、ミトコンドリア病患者さんの情報登録のために構築されたシステム<http://mo-bank.com/index.html>での情報収集を押し進める一端を担っています。また、ミトコンドリアDNA (mtDNA) 異常はミトコンドリア病以外に、糖尿病、癌の転移に関連することが報告されています。私たちは、ピロール・イミダゾールポリアミド (PIP) という、目的のDNAに対して選択的に結合するように合成できる小分子化合物を用いて、ミトコンドリア病や他のmtDNA異常によって起こる難治性疾患の治

療に向けた基礎研究を行っています。PIP投与により、変異型mtDNAの複製減少、それに伴う野生型mtDNAの相対的複製増加により変異型mtDNAの数を減少させることが目的です。変異mtDNA数が減少することにより、症状は著しく改善されるからです。また、既に臨床に用いられている薬剤を効率よく病因mtDNAをもつ細胞に送達する試みも行っています。これにより、低濃度の薬剤で効率よく病因因子をもつ細胞に薬剤を送達できれば、副作用への懸念が減ると考えられます。さらに、PIP-既知薬剤結合剤を用いることにより、疾病の兆候を抑えながら疾病の原因となる遺伝子異常 (mtDNA異常) を修復し、長期的には患者さんを治療の必要のない体に戻すことを目的としています。

変異ミトコンドリアDNAを標的とした薬剤の開発コンセプト



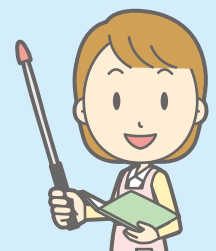
県民公開セミナーのご案内

毎年恒例の県民公開セミナーは、「知って得するがん診療」をテーマに開催します。前半は「抗がん剤の進歩・最新の話」と題して、がんセンター永瀬浩喜研究所長が講演し、後半は「患者教室の紹介」を千葉県がんセンターの秋月伸哉精神腫瘍科部長にお願いいたしました。さらに「正しい情報を持ちましょう・周りの人にどう伝える?」「もしものときを考える ～自分らしい生活を送るために～」と題して、それぞれ、千葉県がんセンターがん相談支援センターの野田真由美氏と、千葉県がんセンター緩和ケアセンターの樋口こず絵主任看護師による講演を予定しています。

がん治療についての理解が深められる貴重な機会ですので、より多くの方にご参加いただけますようご案内申し上げます。

テーマ 「知って得するがん診療」
日時 10月29日 (土) 午後1時より
場所 京葉銀行文化プラザ6階 会議室
(千葉市中央区、JR 千葉駅より徒歩3分)
定員 380人 (当日先着順) 参加無料

問合せ先 千葉県がんセンター
医事経営課



ひらめき☆ときめきサイエンス



千葉県がんセンター研究所では、「ひらめき☆ときめきサイエンス、がんの治療薬ってどうやって創るの？」を開催します（8月2日）。このプログラムは昨年に引き続き文部科学省学術振興会の補助金を得て実施されます。千葉のみならず全国の中高生の皆さんが集まります（定員は24名、応募は学術振興会のホームページからお願いします）。

昨年のプログラムでは九州の大牟田市、関西の神戸市そして北陸の金沢市の中高生の皆さんも参加されました。全国規模の企画になっています。いろんな友達をつくりましょう。

このプログラムでは千葉県がんセンター研究所の職員、ここで学ぶ大学院生や海外からの留学生が皆さんの「先生」として、生命科学実験のイロハ、「がん」と「遺伝子」のつながり、そして「がんの治療薬を創るアイデア」を教えてください。

参加希望の方は千葉県がんセンター研究所（043-264-5431、内線 8523）までお問い合わせください。今年の夏休み、一緒に実験をしてサイエンスを楽しみましょう。

千葉県がんセンター研究所 DNA 損傷シグナル研究室 尾崎 俊文

サイエンスの世界へようこそ！



待ちに待った夏休みがすぐそこまで来ています。今年の夏、暑そうですね。中学生、高校生の皆さんはどのようなプランを持っているのでしょうか？ 海に行くのも、山に行くのも、じっくりと映画を観るのもいいでしょう。あるいは部活で頑張るのも、受験勉強に集中するのもありますね。皆さんが長い夏休みを満喫している時期に千葉県がんセンターの「夢チャレンジ体験スクール」が開校します（日帰りでの三日間のコースです。本年度は、8月8日～8月10日の実施です）。

このスクールでは、千葉県がんセンター病院および研究所で働く職員や大学院生の方々が皆さんの「先生」として、生命科学のイロハ、ヒ

トの体の仕組み、そして「がん」と「遺伝子」のつながりを教えてください。

「夢チャレンジ体験スクール」の定員は24名、県内在住の中高生が対象となっています。参加希望の方々がおられましたら、千葉県教育庁教育振興部生涯学習課（043-223-4069）あるいは千葉県がんセンター研究所（043-264-5431、内線 8523）までお問い合わせください。今年の夏休み、皆さんと会えることを楽しみにしております。

千葉県がんセンター研究所 DNA 損傷シグナル研究室 尾崎 俊文



JR千葉駅から 所要時間:約25分

千葉中央バス: 菅田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR鎌取駅から 所要時間:約13分

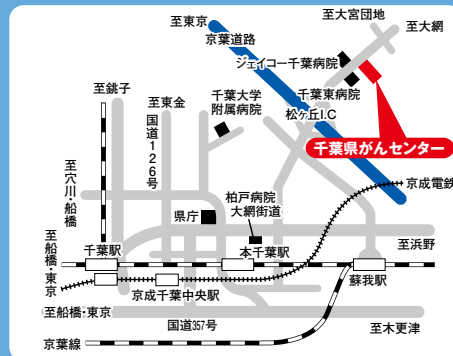
千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR蘇我駅から 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

松ヶ丘I.Cから

大網街道を大網へ向かって約2km右側



千葉県がんセンター

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680
<http://www.pref.chiba.lg.jp/gan/>